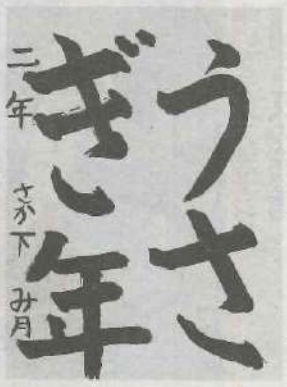
大津市・富士見小1年　木村　文人

北区・立命館小4年　宇野　航世



木津川市・木津小2年　坂下　美月

南区・大薮小5年　中垣　澪里

大津市・滋賀大教付小3年　山口　航世

左京区・同志社中1年　村田　ののは

作文

子どもにスマホを持たせるべきではない

上京区・正親小5年　竹田　和叶

私は、子どもにスマホを持たせるべきではないと考える。

この前、スマホの問題点が書いてある本で、いぞんについての話を読んだ。本には「子どもがスマホを使いすぎてしまうと、いぞんしてしまう可能性がある。スマホにいぞんしてしまうと、外出がしたくなくなって、部屋でずっとスマホをさわってしまい、家族とのコミュニケーションが不足してしまう」と書いてあった。

子どもの時にこんな事が起きてしまっては大変だ。スマホを使いすぎると、いぞんしてしまうのだ。子どもにスマホを持たせるのは少し早いのではないか。

「スマホを使い始める時に対さくをしたらいぞんしないだろう」と思うかもしれない。

しかし、NHKのニュースの、スマホのいぞんについてのアンケート・インタビューでは「最初のうちはスマホのルールを守る事が出来たが、スマホを使っているうちに、やりたいという気持ちが強くなって、ルールを守る事が難しくなってしまった」と言っていた。

「スマホを使う前に対さくをしたら、いぞんしないのでは」という意見も理解できるが、それなら子どもの時にスマホを持たせないのが一番いぞんしない方法なのではないだろうか。いぞんしないようにするためには、子どもにスマホを持たせるべきではない。

冬の楽しみ

伏見区・京都聖母学院小3年　吉松　祐之介

冬はとっても楽しいです。なぜなら、冬にはクリスマスプレゼントがあるからです。

ぼくは、ゆっくりとプレゼントを開きました。そこには、もう1こ箱がでてきました。「こんなげんじゅうになっている箱初めて見たな」。

その箱の中には、ニンテンドースイッチがはいっていました。ソフトは、マリオのスリーディーワールドでした。そのソフトで遊んでみると、とてもとても楽しくて、一日中できそうでした。

来年はどんなものが来るか楽しみです。

詩

おふとん

伏見区・桃山小6年　小山　悠希

ふっかふか
あったかい
冬のゆうわく
出れません

ぼくが一番好きなこと

伏見区・伏見板橋小6年　安間　昊

ぼくは野球をしているときが
一番好きだ
バットをふる　ボールを投げる
ボールを取る　走る　すべりこむ
全部の動きが大好きだ
野球をしているときは
いやなこともめんどうなことも
全部忘れられる
野球をしているときは
何でもできる気がする
だからぼくは
野球をしているときが
一番生きていると感じる

作品募集　小、中学生の作文・詩（いずれも400字詰め原稿用紙1枚以内）および習字（半紙）で、自分の作品に限ります▽作品には郵便番号、住所、氏名、電話番号、学校名、学年を書いたメモをノリづけして、〒604-8577　京都新聞社文化部「少年少女わたしの作品」係へ▽添削することもあります▽作品は返却しません。採用分には図書カードを贈ります。

京大博士パズル　答え

数字の部屋

1	2	1	3	1
2	3	2	1	2
3	1	3	2	1
2	3	2	3	2
1	2	1	2	1

2	3	4	1	2	3	1
3	1	3	2	1	4	2
2	3	2	4	3	2	1
3	2	4	2	4	3	2
2	1	3	4	3	2	3
3	4	2	3	2	4	1
1	3	1	2	1	2	3

漢字バラバラ文

・京都サンガがサッカーの試合に勝利する。

・競売にかけられた美術品を落札する。